

## 事業報告

# 企画展「地衣類 ～コケだけどコケじゃない 藻類？菌類？」実施報告

川又 明德\*

## Report on the Special Exhibition “Lichens Alga? Fungus?”

KAWAMATA Akinori

**Abstract** : Special exhibition “Lichens Alga? Fungus?” was held in the Ehime Prefectural Science Museum in 2017. The purpose of the exhibition is to introduce Lichens.

**キーワード** : 地衣類, 展示

**Key words** : Lichens, exhibition

### はじめに

地衣類は、菌類と藻類の2つの生物が共生をしている姿であり、「特殊化した菌類」と定められている。愛媛県では2014年に絶滅のおそれのある野生生物をまとめたレッドデータブックが発刊され、国内で確認されている約1,600種の地衣類の内、愛媛県では331種が確認され、その中で絶滅危惧種に81種が指定されている(愛媛県貴重野生動植物検討委員会編2014)。地衣類はこのように県のレッドデータブックに取り上げられているものの、一般的には認知度が高い生物とは言い難い。そこで愛媛県総合科学博物館では、地衣類の理解促進と普及を図る目的で、平成29年の春季企画展として「地衣類～コケだけどコケじゃない～藻類？菌類？」を開催した。本稿ではその展示の概要について報告する。

### 展示の概要

当館において地衣類の企画展を実施するのは2回目である。前回2009年に開催した企画展「地衣類の世界」では、県下での調査研究の成果発表としての意味合いが強く、絶滅危惧種や希少種の発見について大きく取り上げた。展示内容としては話題性があったものの、専門的な内容に偏った展示となった。今回の展示ではその反省を踏まえ、身近な所にも地衣類は生育していることを伝えるためあえて絶滅危惧種にはこだわらず、市街地や住宅地等に生育する普通種を取りあげて展示を構成した。展示開催3ヶ月前から各所に配布されるポスターやチラ

シでも、見かける機会の多い地衣類の中から目を引く色合いの種を中心に選定しデザインを行った(図1)。展示は2017年2月18日から4月9日までの51日間にわたり開催され6,903人の入館者が観覧した(表1)。

### 展示の構成

展示は、当館の企画展示室(300㎡)の半面で実施し、10コーナー区分に分けて約100点の標本と26点の写真パネル、12点の解説パネルで構成した。具体的な構成は表2、展示レイアウトは図2のとおりである。

導入部の①「地衣類って何だろう」では、地衣類を知っている人にも知らない人にもこれは何だろうと思ってもらうため、子器を顕微撮影した写真パネル(写真1)を配置した。そして、②「地衣類とは？」では、地衣類の生物学的な定義や各器官の名称と役割を拡大写真や卓上ルーペを用いて示した(写真2)。③「3つのタイプ」では、葉状・樹状・痂状の3種類に分けられる体のタイプを標本で示した(写真3)。そして、誤認を防ぐため、④「地衣類みたいな生き物たち」で姿形が地衣類のように見える藍藻や緑藻、一部の菌類を展示した(写真4)。また、来館者の興味を引くために、⑤「光る地衣類」として、紫外線によって蛍光する種類を暗室内に配置し(写真5)、紫外線照射器により地衣類の色の変化を観察できる体験展示とした(写真6・7)。⑥「地衣類の利用」では地衣類を原材料としたお茶や手芸品、染物を紹介し、リトマス試験紙については掲載されている教科書も示した(写真8)。⑦「身近にいる地衣類たち」は、県内で身近

\* 愛媛県総合科学博物館 学芸課 自然研究グループ  
Curatorial Division, Ehime Prefectural Science Museum

に観察することのできる地衣類約 30 種類を展示した(写真 9)。展示手法は、生育する樹木や石から剥ぎ取らず、屋外での生育状態そのままを観察できるように工夫した。⑧「地衣散歩」では、人通りの多い松山市内を中心に地衣類が普段の見慣れた場所に生育する様子を写真パネルで紹介した(写真 10)。⑨「こんな所に地衣類が！」は、地衣類が樹木や石、コンクリートだけではなく、条件が良ければガードレールや屋根瓦、古タイヤ、ビン等にも生育することを⑦「身近にいる地衣類たち」と同様に生育状態のまま展示した(写真 11)。最後の⑩「地衣類と環境」は、地衣類が大気汚染や酸性雨に弱く人間活動の多い都市部では生育しづらい事を紹介した。

### 展示方法の考察

冒頭にも記した通り、地衣類は県のレッドデータブックに取り上げられている生物の中でも、一般には知られていない生き物である。導入部の顕微撮影した写真パネルは、綺麗、可愛いといった正の印象をもつ者、気持ちわるいといった負の印象をもつ者と様々ではあったが、地衣類を知らない来館者にとっては、これは何だろうと思うきっかけ作りに有効であった。

展示の中心部である「身近にいる地衣類たち」のコーナーでは、前回の企画展「地衣類の世界」での反省を生かし展示方法を 2 点改善した。まず 1 点目は、地衣類を樹木や岩石から剥がして展示するのではなく、着生している樹木や岩石をそれぞれと採集し、そのまま展示した(写真 12)。前回の展示では、野外で樹木や岩石などの着生基物から丁寧に剥がし汚れを取った標本を展示したが、十分に地衣類を認識していない来館者にとっては、それが生き物なのかどうかも分からない様子であった。しかし、樹木や岩石ごと展示することで、「見たことがある」といった反応が多くあり、改善できたのではないかと考えられる。2 点目として、できる限り展示ケースに入れず、顔を近づけて観察できるように配置した。前は絶滅危惧種やそれに準ずる種類を扱った都合もあり、展示ケースに配置せざるを得なかった。ただ、展示ケースに配置することで破損の心配はなくなるが、来館者が十分に地衣類の微細な構造を直近で観察することができなくなった。今回は基本的に普通種を扱ったので、微細で壊れやすい種類を除いては、触れることのできる距離に配置することで顔を近づけて観察できるよう配慮した。種名ラベルについては、樹木に生育する種類には、まち針を利用して表示し観察しやすいよう心がけた(写真 13)。

なお、前回から引き継いだ方法として、展示背景は黒色とした、このほうが白っぽい地衣類の種類が異なることによる微妙な色の違いを観察できるためである。

### おわりに

幸運にも地衣類をメインテーマとして取り扱った企画展を 2 回開催する機会を得た。前回の反省を踏まえ、生育状況をそのまま展示することで観覧者には地衣類という生き物の存在を理解してもらえたと考えている。今後も資料収集・整理保管をしっかりと行い、新たな切り口で地衣類の魅力を伝えて見たいと考えている。

### 引用文献

愛媛県貴重野生動物植物検討委員会編(2014):愛媛県レッドデータブック. 愛媛県県民環境部環境局自然保護課, 623pp.



図1 広報物

表1 企画展「地衣類～コケだけどコケじゃない 藻類？菌類？」開催結果

タイトル	地衣類
会期	平成29年2月18日(土)～4月9日(日)
会場	愛媛県総合科学博物館 企画展示室
入場者数	6,903人
観覧料	無料

表2 展示構成

コーナータイトル	パネル
館長あいさつ	ごあいさつ
①地衣類って何だろう	地衣類って何だろう
②地衣類とは？	地衣類とは！ 地衣類の体の中は…
③3つのタイプ	3つのタイプ
④地衣類みたいな生き物たち	地衣類みたいな生き物たち
⑤光る地衣類	光る地衣類 地衣成分について 地衣成分の有用性
⑥地衣類の利用	地衣類の利用
⑦身近にいる地衣類たち	身近にいる地衣類たち
⑧地衣散歩	地衣散歩
⑨こんな所に地衣類が！	こんな所に地衣類が！
⑩地衣類と環境	地衣類と環境

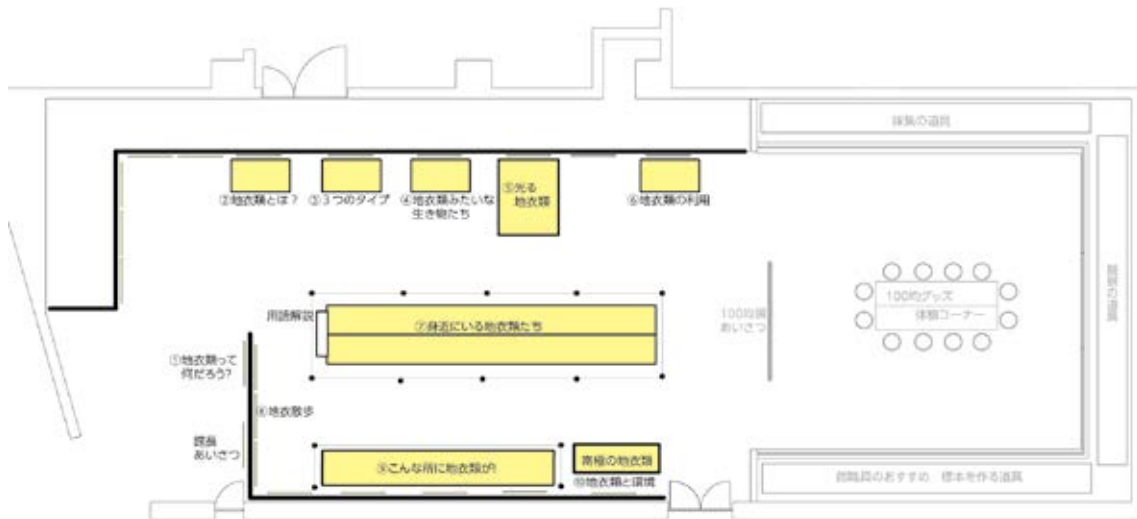


図2 展示レイアウト

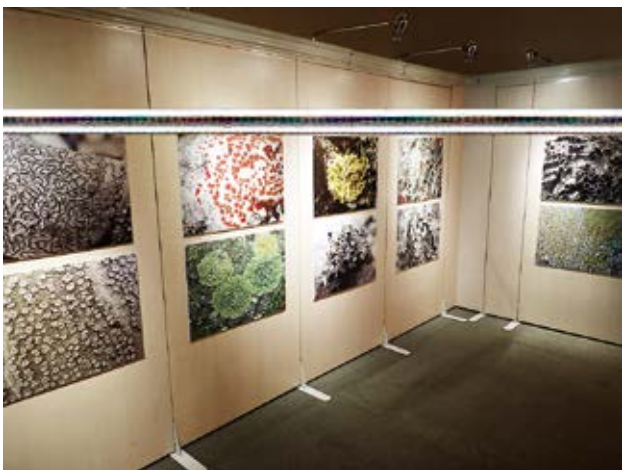


写真1 ①「地衣類って何だろう」



写真2 ②「地衣類とは？」



写真3 ③「3つのタイプ」



写真6 紫外線照射前



写真4 ④「地衣類みたいな生き物たち」



写真7 紫外線照射後



写真5 ⑤「光る地衣類」



写真8 ⑥「地衣類の利用」



写真9 ⑦「身近にいる地衣類たち」



写真12 樹木や岩に着生したままの展示



写真10 ⑧「地衣散歩」



写真13 まち針を利用したラベル



写真11 ⑨「こんな所に地衣類が」